

イネクロカメムシ

○ 被害と発生生態

成虫は体長8～10 mmで光沢のない黒色のカメムシである。山口県では中山間地や平坦地の山地や雑木林等に近い水田で発生が多い。

成虫や幼虫は口針を葉や茎に差し込んで養分を吸汁するため、最初は葉に黄白色の小さな斑点がみられる。食害を受けるとイネの葉先は黄変、捻転し、草丈は伸びず分げつは抑制される。さらに、出穂しても穂重は軽く不稔粒が増加する。こうした被害は6月～7月頃にみられる越冬成虫によるものが主体で、次世代の幼虫や新成虫による被害は比較的少ない。

年間1回の発生で成虫で越冬する。主な越冬場所は雑木林、竹やぶ、雑草や枯葉、積わらの中、建物の周辺等である。特に湿度が高く暖かいところで越冬することが多い。水田の付近にこうした越冬に適する場所が多い場合には発生が多い。

越冬成虫は6月～7月に越冬場所から水田に移動する。水田に入った越冬成虫は、イネの葉や茎を吸汁しながら8月下旬頃まで葉や葉鞘に産卵する。次世代の幼虫は7月頃から発生し、8月頃から発生する新成虫は10月頃まで穂を加害した後、越冬場所へ移動する。

○ 防除方法

(ア) 耕種・物理的防除法

- ・ 極端な早植えや密植を避ける。
- ・ 葉色の濃いイネは被害が出やすいので適切な肥培管理につとめる。

(イ) 薬剤防除

- ・ イネクロカメムシに登録のある箱施用剤により防除を行う。
- ・ 本田での防除時期は6月中旬（本田への飛来時期）～7月（成虫産卵期）頃である。
- ・ 畦畔付近で発生が多いため、畦畔付近を中心に防除を行う。



イネクロカメムシ成虫



被害株